

科目責任者 田島 卓

■教育目的

本科目の目的は、科学史の概略的な知識を身につけることと、歴史学によって現代という時代がどのように問われるかを理解することです。科学史を取り上げる理由は、第一に、歴史を超越しているように思われる科学も、歴史的な文脈の中に拘束されることがあるためです。第二に、科学史が実証主義的な歴史学の素朴な例となるからこそ、実証主義的歴史学への批判的考察に適するからです。この二つの点は、副次的に科学的思考そのものへの理解を深めるとともに、真理や事実といったものについても多元主義的傾向の強まっている現代において、歴史問題を考察する上でも基礎的な洞察を与えてくれるはずです。

■学習到達目標

1. 各時代における科学の立場と特質を理解する。
2. 科学の歴史的・社会的・文化的背景を理解する。
3. 歴史哲学的反省を踏まえ、歴史学のそれ自体の方法論・観点・アプローチを理解し、批判することができる。

■準備学習（予習・復習）

予習：授業で取り上げるテーマについて、インターネットで検索したり、参考書内の該当するテーマの章に目を通したりしておく（40分以上）。

復習：授業で紹介した参考書などを読み、特に重要な視点を考察し、それに対する自身の賛否を決定すべく助考する（40分以上）。

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	序論	歴史を学ぶ意義とは何か。歴史を超越している真理の歴史は可能なのか？	
2	古代における科学（1）	イオニア自然学からデモクリトスまで	
3	古代における科学（2）	アリストテレス自然学、ユークリッド『原論』、古代天文学	
4	古代における科学（3）	医学、ヒポクラテス、アスクレピオス、ガレノス	
5	古代末期から中世における科学（1）	古代ローマ・イスラーム世界の科学・技術、数学	
6	古代末期から中世における科学（2）	魔術と科学、西欧世界への還流	
7	「科学革命」の時代（1）	天文学（地動説、ガリレオの望遠鏡）	
8	「科学革命」の時代（2）	物理学（ニュートンと運動方程式の発見）	
9	「科学革命」の時代（3）	生物学（進化思想とダーウィン）	
10	科学と科学哲学（1）	ウィーン学団と論理実証主義	
11	科学と科学哲学（2）	クーンのパラダイム論とその周辺	
12	歴史学と科学史（1）	歴史学の二つの源流（ヘブライズムとヘレニズムの遺産）	
13	歴史学と科学史（2）	歴史の物語論（ナラトロジー）	
14	歴史学と科学史（3）	過去の実在と「真理」認証のための社会的手続き	
15	まとめ	歴史とは「現在と過去の対話」なのか？	

■授業分担者

田島 卓 (No.1～15)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

1. 課題（レポート、試験等）のフィードバックの方法
 - ・コメントシートで理解度を確認し、授業内で解説などを行う。
 - ・講義や定期試験に関する質問等を個別に受け付け、解説・説明をする。
2. 期末試験の点数（70%）、平常点（30%）

■教科書

なし

■ 参考書

E.H. カー『歴史とは何か』清水幾太郎訳、岩波新書、1962年。

A. ダントー『物語としての歴史』河本英夫訳、国文社、1989年。

村上陽一郎『西欧近代科学〈新版〉その自然観の歴史と構造』新曜社、2002年。

同『近代科学と聖俗革命〈新版〉』新曜社、2002年。

中根美知代ほか『科学の真理は永遠に不変なのだろうか——サプライズの科学史入門——』、ベレ出版、2009年

遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010年。

坂本秀人『科学思想史の探求』学文社、2013年。

野家啓一『歴史を哲学する 七日間の集中講義』岩波現代文庫、2016年。